

# 全国協議会 ニュース

2014年3月1日発行  
第261号

発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都  
千代田区東神田1-3-4  
KTビル3F  
TEL.(03)5823-6360  
FAX.(03)5823-6365  
発行責任者:野村正満  
http://www.marrow.or.jp/  
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655

## ドナー登録の急増に直結

### 緊急雇用創出基金事業の実績と課題

国の緊急雇用対策事業を自治体が活用しての「ドナー登録」が成果を挙げていることは、つとに知られています。日本骨髄バンクによれば、2003年に富山、茨城に導入されて以降、福島、沖縄、埼玉、群馬、徳島、神奈川と相次いで実施されてきました。最新の神奈川を中心に、改めて実績と課題を振り返ります。これだけ顕著な効果があることから、この方策を全国の自治体に拡大していくことが望まれます。また、雇用対策事業とは別のドナー登録拡大策が具体化していくことが求められ、骨髄バンク・日本赤十字社・ボランティア団体が協力して取り組むことが重要です。

#### 神奈川県

神奈川県のドナー登録受付数は、献血ルーム常設窓口が3分の2を占めています。減少傾向にあつて昨年は5年



ドナー登録希望者への説明



登録への呼びかけにも熱

前と比較すると4割減となつていました。かねてから神奈川県赤十字血液センターは、献血ルームに出向く献血希望者は意識が高くドナー登録をしている人

が多いので、ルームでの登録呼びかけは成果が見込めないという考えを示していました。しかし緊急雇用基金による献血ルームの説明員配置が埼玉

県で著しい成果を挙げていることを示したところ、施設面積の広いルーム2カ所に限り、月1回神奈川の会の説明員を置くことになりました。

同時期に神奈川県骨髄・さい帯血移植推進協議会が開催され、緊急雇用基金によるドナー登録推進ができないかという提案に対し、委員から強力な後押しがありました。それらが追い風となり、昨年7

#### ボランティアの集いin醍醐寺 ① 国宝・重文の横で画期的イベント

「京都」と見聞きするだけで、つい「オッ」と反応してしまうのは、日本人のほぼ全員が修学旅行などで一度は必ず訪れているゆえでしょうか。こんなジョークもあります。

「京都で『戦後』言うたら、そりゃ、応仁の乱の後のことどす」

なるほど、普通「戦後」といえば、太平洋戦争が終結した1945年以後を指すわけですが、さすが京都、応仁元年(1467)から10年に及ぶ戦乱によって灰燼に帰した後の600年間が戦後というわけですか。スケールがヒトケタ違います。さらに京都人は続けます。「応仁の乱で焼け残ったのは、釈迦堂と醍醐寺だけ」

その貴重な醍醐寺は、1994年に世界遺産に登録されましたが、今年の「全国ボランティアの集い」はその境内で行われます。昨年7月に全国協議会会長に就任したのが、醍醐寺の仲田順和第103世座主ですから、仲田会長からの「是非うちで」というお誘いを受け、関係者一同「それでは」と迷うことなく決した次第です。

醍醐寺の境内は広大ですが、「集い」は国宝の唐門に近い霊宝館内の「平成館」が会場となります。実はここには国宝の薬師三尊像などが展示されており、仏像や屏風などの重文に囲まれた画期的なイベントになりそうです。醍醐寺には国宝の五重塔(951年建立=京都府最古の木造建造物)など、文書も含めると国宝6万9000点、重要文化財6500点に及ぶ寺宝があります。「集い」に参加する全国の骨髄バンクボランティアには「何らかの特典」が用意されるかもしれません。

「集い」は6月21日(土)、全国協議会の総会は翌22日(日)を予定しており、プログラムの詳細は実行委員会で煮詰めているところですが、ふだんは足を延ばすことのあまりないであろう醍醐寺を堪能できる絶好の機会ともなります。100人分のホテルも確保しました。全国からの参加をお待ちしながら、6月まで「醍醐寺情報」をお伝えします。



霊宝館の外観



「集い」の会場となる平成館(奥に薬師三尊像)

月別ドナー登録者数

	神奈川		計
	12年度	13年度	
4月	34	53	87
5月	53	74	127
6月	380	63	443
7月	707	45	752
8月	561	39	600
9月	515	188	703
10月	511	257	768
11月	386	189	575
12月	355	229	584
1月	382	256	638
2月	418	-	418
3月	408	-	408
計	4710	1393	6103

注: 数値は両県それぞれの合計ながら、説明員配置ルーム数は埼玉(6月~)8カ所、神奈川(13年9月~14年1月)2カ所

月半ばに神奈川の会を委託団体とする緊急雇用基金事業が決定しました。

県は、献血ルーム2カ所における神奈川の会の説明員配置を視察した上で、雇用期間は昨年9月1日~今年2月28日、雇用人数は川崎ルフロロン3名、横浜駅東口クロスボー

ト3名(1名はルーム外での呼びかけ)、就業は週5日、開所時間中という事業概要を提示してきました。県内には献血ルームが8カ所あり、説明員を分散して全てに配置

したいところでしたが、スペースの問題などから難しいとのことでした。両ルームとも献血受付に

個々のやり方があり、マニュアルもそれに沿って定められた。勤務日は、献血受付の多い日曜は混乱の可能性があるので、火・土曜日としました。献血受付前に呼びか

けますが、献血が済んでから説明を受けにくるパターンが多くなることを想定し、無理をせず長いスパンで登録数を伸ばせばと考えました。

結果として、即時受付に結びつかない説明員数は受付の3倍近くに上っています。献血ルームでドナー登録ができることを知らなかった、声をかけてもらってきつかけができた、と言われることが多く、

ルームでの登録案内は潜在的な登録希望者の掘り起こしになったといえます。

雇用した説明員は骨髄バンク活動には関わっていませんでしたが、呼びかけ、説明、専門的知識取得と、スキルを上げながら、献血ルーム

スタッフと意思の疎通を図って改善案を提示するなど熱心に励んでくれたのが、成果につながったことの1つだと考えます。また、献血ルームス

タッフも忙しい業務の中、惜しまず協力してくれました。

埼玉連絡会は、埼玉県の委託を受けて2010年度から3年間、県内の各献血ルームに1名ずつ登録説明員を配置し(平日のみ)、ドナー登録の推進を図ってきました。

#### 埼玉県

埼玉連絡会は、埼玉県の委託を受けて2010年度から3年間、県内の各献血ルームに1名ずつ登録説明員を配置し(平日のみ)、ドナー登録の推進を図ってきました。

説明員を配置することの有効性は、3年間で1万27700名を超えるドナー登録が実現したことや、別表のとおり、配置のない月(4、5月)の1ルーム当たりの月平均登録者数が5.4名だったのに対し、配置した6月以降のそれ

別表のとおり、この5カ月で献血ルームでの受付数が前年度1年間の実績を超過したことから、県から2月までの雇用を3月まで延長できないかという打診がありました。神奈川の会では血液センター、献血ルーム、雇用者と協議の上、延長を決めました。

(阿部公子)

#### 心からのご寄付に 感謝申し上げます

1月21日~2月20日(敬称略)

株式会社エアネット	現金	191,000円
徳島藍ライオンズクラブ	現金	3,226円
飛田行康	現金	5,000円
塩谷泰人	現金	1,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
コスモ石油労働組合	現金	34,244円
(株)函館国際ホテル	現金	7,330円
倉敷中央病院	現金	4,008円
「パパス&ママス」	現金	5,512円
末松君を応援する会	現金	500,000円
●さとうきち子患者支援基金		
倉敷中央病院	現金	9,271円
●志村大輔基金		
庄子賢也	現金	10,000円
後藤 晃夫	現金	30,000円
築瀬 知雅子	現金	5,000円
高橋 昌子	現金	10,000円
●こうのとりマリン基金		
岡田 千恵子	現金	3,000円
瀬戸 めぐみ	現金	2,000円
細井 裕樹	現金	30,000円
がんと生殖に関するシンポジウム2014募金箱	現金	81,124円

活動資金の援助をお願いします  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会

#### 第125回理事会報告

1月19日 全国協議会事務所

##### 報告事項

●箱根駅伝での普及広報活動  
●デルタ航空からのマイレージ説明  
●サポーター制度リーフレット作成

●新法施行に伴う基本方針、施行規則、省令、ガイドライン配布

●患者社会復帰事業

●(検討事項)  
●アジア地域における白血病治療に関する調査

●メーリングリスト閉鎖

●造血細胞移植学会での活動

●(今後の予定)  
3月16日 第126回理事会

#### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする 骨髄バンク NOW

(財団マンスリーJMDP(2月14日発行)より抜粋)

●今年度説明員研修会開始  
1月19日の東京会場から3月16日の名古屋会場まで、全国8カ所で開催されています。今回の研修会のテーマは「若年層へのドナーリクルート推進」です。年齢超過によるドナー登録取り消し者数は年々増加する一方で、2017年には年間1万人を超える予想されています。登録者数を維持・増加させるには、長期間のドナー登録が可能な若年層へのリクルートが重要な課題です。

◆日本骨髄バンクの現状(2014年1月末現在)			
	12月	1月	現在数
ドナー登録者数	3,273	2,562	442,211
患者登録者数	234	294	2,417
移植例数	92	120	16,529

■1月の区分別ドナー登録者数:献血ルーム/980人、献血併行型集団登録会/1,496人、集団登録会/15人、その他/71人

■1月の年齢別ドナー登録者数(現在数)  
10代 3,012人/20代 72,332人/30代 150,821人/40代 171,850人/50代 44,196人

■1月の20歳未満の登録者209人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。2012年7月より集計方法が変わりました。



### 基金通じて経済支援へ がんと生殖に関するシンポ2014

2月2日(日)、東京・千代田区のベルサール飯田橋駅前ホールで「がんと生殖に関するシンポジウム2014」が開催されました。このシンポジウムのサブタイトルは「血液疾患患者さんの妊娠(にんよう)性温存対策のこれからを考える」であり、昨年11月末に全国協議会がスタートさせた「こうのとりのマリーナ基金」や、同じく昨年1月にスタートさせた「志村大輔基金」と関係しています。

血液疾患の治療には、生殖機能にダメージを与えるものが多くあります。その原因は、放射線照射と薬剤の副作用です。



それに対する妊孕性温存のための現在の主な施策は2つ。1つは放射線照射時の生殖巣遮蔽であり、もう1つは精子・卵子凍結保存です。ただし、もちろんどちらも万能ではありません。前者は、薬剤からのダメージには無力であり、かつ再発リスクが高まる可能性が否定されていません。後者は、治療・移植スケジュールや月経周期、小児患者への不応などから、保存の機会を得られなかったり、あるいは保存できたとしても数や質で十全ではなかったりすることも多いです。

このほかには、まだ研究途上の段階ですが、卵巣凍結保存があります。これは卵子凍結保存と似ていますが、月経周期や小児患者への不応問題から解放され、治療・移植スケジュールに関する問題も改善されるといった利点があります。一方、病変細胞を再移植する危険性があり、再発リスクの増加は否定しきれません。

### 医療現場からの

### 最新情報

—その5

虎の門病院血液内科 石綿一哉

### HLAのおさらい

HLA(ヒト白血球型抗原)はいわゆる白血球の血液型であり、自分と他人を認識する目印となります。HLAはA、B、C、DR座などをはじめとして数十種類以上の型があり、それぞれの型がさらに数十種類に分かれていて、その組み合わせは数万通りとなります。

移植においてはドナーと患者の間で、このHLAを一致させることが条件です。つまりHLAが異なれば患者の細胞がドナー細胞を攻撃して生着不全をおこし(拒絶反応)、ドナー細胞が患者を攻撃して患者の皮膚や消化管の臓器が障害されるのです(GVHD=移植片対宿主病)。

HLAのどの型をどれだけ合わせると移植の結果がどう違うかという研究結果が明らかになるにつれて、移植の安全性が高まってきていますが、その研究はいまだ更新が続いています。現在日本では通常A、B、C、DRの4座一対で計8個の型を見ているのですが、最近では海外において6座一対の12個の型を合わせることで安全性を高めるための試みもされてきています。

さい帯血は移植のための条件が比較的緩く、A、B、DRの3座一対の6個の型のうち4つ合えば移植が可能とされてきました。しかし、そもそも他の移植と比べて生着不全や特定の合併症が多いといわれているさい帯血移植においてそれで十分なのかどうかということは、本当のところはまだ分かっていない部分も多いのです。今回はそのさい帯血移植におけるHLAについての話をしていきます。



今回私は、全国骨髄バンク推進連絡協議会に行つて、人

### 総合学習で協議会訪問 中学生から質問攻め

東京・中野区立中野中学では、総合的な学習の時間の一環として、2年生が「ボランティア・社会貢献活動調査」に取り組んでいます。1月24日、生徒5人が全国協議会事務局を訪れました。中島事務局長が、骨髄バンクやさい

なりたい」。治療後の人生の質に関する問題は、白血病などの原疾患の治療成績の向上により顕在化したものであり、医療もそれに応える形で発展しつつあるという側面も、私は感じます。

私たちは治療に直接関わる医療者ではないので、医療面で患者さんのニーズに配慮することはできません。しかし、冒頭に挙げた2つの基金などを通して、経済的な支援をすることはできます。現に、費用に関する問題で、卵子保存等の治療を諦める人は多いと聞きます。血液疾患患者の妊孕性温存医療の勉強をすると共に、このような治療の存在と基金の存在のさらなる周知の必要性を感じたシンポジウムでした。(野平晋作)

帯血バンクの概要をはじめ、全国協議会の活動などについて説明したあと、生徒からの質問を受けましたが、いずれも事前に準備していた項目が矢継ぎ早に出されました。

立春を過ぎてから、学校を通じて感想文が送られてきました。そこには「18歳になったらドナー登録したい」などの思いもつづられており、学校内での教育目標がしっかりとしていれば、教師の引率なしでも立派にこなせることを証明して見せました。原稿依頼にも二つ返事で受け入れてもらえ、その内容を紹介します。

このように問題を解決するために私に何ができるのか、と考えてみると、私が多くの人にこの団体について話すことだと思えます。そして、全国骨髄バンク推進連絡協議会の活動について多くの人が理解してほしいです。それが、今回訪ねさせていただいたお礼にもつながるのではないかと思います。(村上 奨)



### ボランティアの仲間たち 吉田孝行さん(福島)の巻



福島県 骨髄バンク推進連絡協議会の吉田です。私が骨

髓バンクのボランティアを始めたのは、自分の骨髄液を患者さんにおすそわけさせていただいたことがきっかけで、既に十年の月日が流れたことになりました。年をとりました。そんな月日の中、毎年骨髄

のために働くことがどれだけ大切で、難しいのかということを知ることができました。まず、この活動の理解が完全には広まっていないということ。骨髄バンクは患者の命に関わるものですが、ドナーになる人がいなければ意味がありません。このために、様々なイベントが行われていますが、未だに理解を得られない人も少なくありません。

次にこの団体の経済的な問題についてです。NPOである以上、一定のお金が入ってくるわけではなく募金という手段でお金を得るしかありません。そのため、より大きな活動を行うことができないこともあります。

九州地区ブロックセミナーを2月16日(日)に福岡市で開催しました。

今回のテーマは造血幹細胞移植推進法(新法)が施行された中で、今後ボランティア活動がどのように変わるのか、現状の課題は何かなどを全国協議会の野村理事長から講演いただきました。

野村理事長は、まず「新法においてボランティアの役割は不明瞭な記載であるが、これまでドナー登録44万人の原動力である各地のボランティアに求められていくだろう」と述べました。

さらに、骨髄バンクの最大の課題としてコーディネート期間短縮に触れ、真に患者救済の目線に立つためには、コーディネート網の根本的な考え方(哲学)を変える必要があるとの話には、大いに共鳴しました。

2つ目の演題として、HLAの研究に長く従事され、かつて九州骨髄バンクを設立された徳永和夫さんからも講演いただき、現在のような骨髄バンクがない時代に地方でバンクを発足された正義感、行動力に一同敬服させられました。(辻 枝雄)

アは自信と誇りを持つべきで、そのことは行政や事業関係者からも評価されている。今後は日赤が骨髄バンクドナー登録を請け負うことになり、飛躍的にドナー登録数も伸びるであろうが、社会に共感と連帯を広げるための草の根的な活動はこれからもボランティアに求められていくだろう」と述べました。

関西ゴールドジムスクールが発表会

### 「白血病と言われたら」第5版へ 発行支援のご寄付を募集中!

患者さんやそのご家族が闘病するための情報を集めた闘病ハンドブック「白血病と言われたら」は版を重ね、これまでの総発行部数は5万部を超えています。しかし、第4版の刊行から6年近くが経過しました。現在、内容を充実して改訂すべく第5版刊行に向け編集作業を進めています。

装いも新たに第5版は春の連休前には、このハンドブックを必要とする皆さまにお届けたいと思っています。

「白血病と言われたら」の改訂には多額の費用が必要となりますが、現在これに充てるために、企業・団体・個人の方から支援のご寄付を募っています。協力をいただけた方は巻末にお名前を掲載させていただきます。詳しくは全国協議会事務局にお問い合わせください。趣意書を送らせていただきます。



日ごろ運動不足の私としては、軽々と身体を動かし、披露される演技に見入っていました。(山村詔一郎)